

理工学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
	1年次	190 ※ 10 (190)	学内	学外	学内	学外	238 ※ 18 (264)	学内	学外
			305 ※ 5 (347)	128 ※ 26 (113)	278 ※ 5 (293)	92 ※ 24 (102)		161 ※ 2 (163)	47 ※ 16 (44)
学生の進路 (人)	修了者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他	
			企業	教員	公務員				
	207 ※ 14 (210)	172 ※ 4 (176)	170 ※ 4 (170)	— ※ — (2)	2 ※ — (4)	— ※ — (—)	16 ※ 4 (15)	19 ※ 6 (19)	

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 理工学研究科の活動

〔教育〕

科学技術立国を目指す我が国では、理工学全般に関連した技術分野における研究開発を推進するための人材供給に対する社会的要求は、ますます高くなってきている。特に、理工学分野に対する求人では、企業側から大学院修了者を強く求められ、最近の理工系技術者の大半は修士課程修了者となっており、修士課程大学院の理工学教育に対する社会の期待が大きい。このような状況を反映して、理工学研究科修了学生に対する企業からの求人は、高い水準にある。これは当研究科における幅広い学際的知識を身につけた、高度専門職業人を育成する教育が如何に社会の要求に直接的に応えているかを客観的に証明するものと云うことができる。

さらにまた、博士課程における教育と研究に対する要求も強まり、博士前期課程としての修士課程教育の重要性が認識され、平成16年度からは理工学専攻9分野の内、数学、物理学、化学、物理工学、物質工学の5分野が、前期後期の区分制博士課程になる数理工学物質科学研究科に学年進行により移行することが予定されている。

このような理工学研究科の広報活動の一環として、オープンキャンパスを実施し、広く他の国公私立大学、高等専門工業高校等から多くの参加者を得た。

高度職業人育成教育について内容を充実させるべく、特にアントレプレナー育成を目指し実務経験者による知的財産取得に関する講演、ベンチャービジネスラボラトリー、産学リエゾン共同研究センターとの協賛によるMOTに関する講演をおこなった。

〔学生生活〕

本研究科として期待される人格を備え、それにふさわしい行動を行うための良識を身につけた学生を育てるため、研究指導教員による密接な教育研究指導を行っている。入学時のオリエンテーションでは、研究の場と社会の接点において問題となる実験廃棄物の取り扱いに関する指導、精神衛生に関するガイダンス等を行っている。

2 教員の教育業績評価の状況

理工学研究科構成教員の学生教育及び研究指導に関する業績に関しては、本研究科内に設けられた自己点検・自己評価委員会によって評価法を定めて行っている。また、本研究科運営委員会を通じて、各分野における活動状況を把握し、業績評価に反映させている。

3 自己評価と課題

理工学関連の大学院博士課程、システム情報工学研究科および生命環境科学研究科との再編は進行中であり、これらの研究科への移行と継承が引き続く今後の課題である。平成16年度の2年次生の構成は例年と変わりなく、教育研究はこれまでどおりの理念と方針に沿って行われる。